

令和6年度 「長野ひまわり幼稚園 自己点検評価・関係者評価」

1. 令和6年度の活動目標

【園の目標】

子どもたちが工夫し自発的に活動できるよう、屋内外の環境を整え、十分に体を動かして遊ぶ「逞しい子ども」を育てる。また、遊びを通して、友達や先生との絆を深める。

2. 自己点検

[評価の基準]

- A <十分達成できた> 優れた（水準・内容・環境・対応）である。
- B <概ね達成できた> 妥当な（水準・内容・環境・対応）である。
- C <あまり達成できなかった> やや不十分な（水準・内容・環境・対応）で改善を要す。
- D <ほとんど達成できなかった> 不十分な（水準・内容・環境・対応）であり一層の改善を要す。

(R07.03.31)

評価項目	自己点検評価の内容	自己評価	関係者評価
Ⅰ. 保育の計画性 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 園の建学精神、教育理念、教育方針の理解	A	A
	2 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領の理解	A	
	3 教育・保育課程の編成と評価	A	
	4 保育計画の作成	A	
	5 環境の構成	A	
	6 保育と計画の評価・反省	B	
Ⅱ. 保育の在り方、幼児への対応 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 健康と安全への配慮	A	A
	2 幼児のみとりと理解	A	
	3 指導と関わり	A	
	4 保育者同士の協力連携	A	
Ⅲ. 保育者としての資質や能力・良識・適正 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 専門家としての能力・良識・義務	A	A
	2 組織の一員としての在り方	A	
	3 まわりを感じ取れる感性・アンテナ	A	
Ⅳ. 保護者への対応・守秘義務 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 情報の発信と受信	A	A
	2 協力と支援	A	
	3 守秘義務の遵守	A	
	4 対応上のマナー、良識	A	
	5 クレームへの対処の仕方	A	
Ⅴ. 地域の自然や社会とのかかわり	1 地域の自然、人々とのかかわり	A	A
	2 小学校との連携	A	

自己評価 (A) 関係者評価 (A)	3 地域の特性を生かした保育の展開	B	
VI. 保育者の専門性に関する研修と研究への意欲・態度 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 研修・研究への意欲・態度	A	A
	2 保育者としての専門性に関する研修・研究	A	
	3 遊具、教材に関する専門性の向上	A	
	4 園内の環境に関する専門性の向上	A	
	5 今日的課題（障害アレルギー・危機管理他）に関する専門性の向上	A	
	6 自らを高めるための学習	A	
VII. 保育の在り方、3歳未満児への対応 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 健康と安全への配慮	A	A
	2 乳幼児のみとりと理解	A	
	3 指導と援助	A	
	4 保育者同士の協力・連携	A	
VIII. 地域における子育て支援 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 自園の子育て支援事業の理解	A	A
	2 環境設定	A	
	3 支援の姿勢	A	
	4 育児相談	A	
	5 支援の評価・反省	B	
IX. 年間目標 自己評価 (A) 関係者評価 ( )	1 目標の設定と実行	A	A
総 合 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	積極的に保育に取り組み、子ども一人ひとりに寄り添った対応ができている。計画作成や情報共有の強化が必要で、保護者対応や守秘義務の徹底が今後の課題。引き続き専門性を高め、保育の質向上を目指していくことが期待される。		

※134 項目の評価割合 A 評価 40.61% B 評価 48.20% C 評価 10.00% D 評価 1.20%

### 3. 保護者評価

[評価の基準]

- A <よくできている、よかった、賛成>
- B <どちらかというと出来ている、賛成>
- C <どちらかというと出来ていない、よくなかった>
- D <できていない、反対>

Q1 認定区分(回答者)	1 号	2 号標準	2 号短時間	3 号標準	3 号短時間
	48 人(59.3%)	23 人(28.4%)	10 人(12.3%)	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)

(%)

Q2 園の教育方針	A 71.6	B 27.2	C 1.2	D 0.0
Q3 今年 of 目標の設定内容・取組・成果について	A 70.9	B 26.6	C 2.5	D 0.0
Q4 園の「教育」の内容について	A 65.0	B 35.0	C 0.0	D 0.0

Q5 教職員のお子さまへの対応について	A 73.4	B 22.8	C 3.8	D 0.0
Q6 教職員の保護者さまへの対応について	A 66.3	B 30.0	C 3.7	D 0.0
Q7 園の施設・設備について	A 61.3	B 32.5	C 6.3	D 0.0
Q8 「お便り」「メール」など情報発信について	A 57.5	B 36.3	C 6.3	D 0.0
Q9 感染症への対応について	A 47.4	B 47.4	C 3.8	D 1.3
Q10 給食について	A 87.5	B 11.3	C 1.2	D 0.0
Q11 課外教室について	A 87.8	B 10.2	C 1.2	D 0.0
Q12 写真のネット販売について	A 38.5	B 35.9	C 23.1	D 2.6
Q16 本園を選んで良かったと思いますか	A 81.3	B 17.5	C 1.2	D 0.0

※Q13, Q14, Q15 について複数の選択肢のため省略してあります。

#### 4. 関係者評価

実施日：令和7年3月12日（水） 10:00 から

##### I. 保育の計画性 A

同じ学年の保育者同士で日々の保育について話し合い、子どもの興味や関心に応じた活動を柔軟に取り入れる姿勢が見られる。また、新しい取り組みにも前向きに挑戦しようとする姿勢があり、保育の質の向上に意欲的である点は評価される。反面、月案や行事計画の内容がやや抽象的で、活動の展開や保育環境の再構築においては課題が残る。保育を見せ合う機会がなかったことから、同僚の実践から学び合う体制が十分ではなく、保育の一貫性や深まりに影響していると考えられる。事前準備の不足や計画から実施までの流れにおける課題も認識されており、今後は計画の具体性を高め、時間的・物理的な準備も見通した保育が求められる。保育補助に対しては真摯に取り組む姿勢が見られるが、専門性の向上には引き続き研鑽が必要である。子どもが安心して過ごせる環境づくりへの意欲は感じられるため、他者との協働や振り返りを活かしつつ、保育の計画性の充実が期待される。

##### II. 保育の在り方、幼児への対応 A

子ども一人ひとりの成長に目を向け、「できるようになったこと」を発見しようとする姿勢が見られ、丁寧で温かい関わりが基本的に保たれている。特に、子どもの気持ちに寄り添いながら視線を合わせて関わる場面や、気になる子への対応について職員同士で連携を図る姿勢は評価される。一方で、保育がうまくいかない場面で語気が強くなることがあったとの振り返りがあるように、子どもへの声掛けや言葉遣いに対する自己省察が求められている。

また、怪我や体調不良の子への対応には迅速に動いている反面、日常的な子どもの話をじっくり聞く余裕が持ちづらい状況もあり、忙しさの中でも個の思いに丁寧に応じる姿勢の継続が課題である。遊びに没頭する子や戸惑っている子など、それぞれの姿に目を向け、適切な声掛けや関わりを通して友達関係の広がりを意識してきた点は前向きな実践である。今後は、子どもたちの遊びの連続性を保障するためにも、職員間での情報共有をさらに充実させ、保育の一貫性を高めていくことが期待される。時間に追われる中でも「今、何が最も大切か」

を見極め、子どもと向き合う姿勢の深化が望まれる。

### Ⅲ. 保育者としての資質や能力・良識・適正 A

保護者との信頼関係構築に努め、送迎時のコミュニケーションを大切にしているが、言葉選びには引き続き配慮が求められる。正しい日本語の使用や日頃の所作についても意識が高く、子どもたちへのよき手本となるような振る舞いが見られる。園内では期日管理や報告・連絡・相談に関して丁寧な姿勢が見られ、クラス運営における協力体制も築けている。研修を通じた資質向上への意欲も持ち続けており、今後はさらに積極的な学びの姿勢と情報共有を図ることで、保育者としての専門性を一層高めていくことが期待される。

### Ⅳ. 保護者への対応・守秘義務 A

保護者とは送迎時に名前を呼んで丁寧に挨拶し、日々の積み重ねで信頼関係を築こうとする姿勢が見られる。コドモンでの連絡に加え、必要に応じて直接会話や電話での対応も行い、保護者との関係づくりを大切にしている。クラス便りには写真を多く掲載するなど、活動の様子を分かりやすく伝える工夫もされている。保護者の相談には親身に対応し、内容をメモするなど丁寧な姿勢で臨んでいる点は評価できる。一方で、長引く相談への対応や本質の見極めには課題を感じており、今後はよりの確な伝え方を意識したい。守秘義務については基本的な意識を持ち、書類の管理にも気をつけているが、情報の取扱いや共有の際の配慮については今後さらに徹底していく必要がある。担任を中心とした対応が主であるが、他の職員との連携の中でも常にプライバシー保護の視点を持ち、慎重な姿勢を維持していくことが望まれる。

### Ⅴ. 地域の自然や社会とのかかわり A

地域の公園や神社への散歩を取り入れ、自然と触れ合う活動を積極的に行っている。若里公園が近くにある利点を活かし、季節の変化や自然物に触れる体験を子どもたちと共有するなど、日々の保育の中に自然との関わりを取り入れている。近隣住民への挨拶を意識するなど、地域との関係づくりにも努めているが、地域行事への参加や交流については今後の課題とされている。実習生の受け入れや指導には前向きに取り組んでおり、地域に対する貢献の一つとなっている。子どもたちが楽しめるよう、感触が苦手な子にも配慮した工夫をしながら自然に触れる活動を行っており、今後は散歩の機会をさらに増やすため、行事や日々の計画にゆとりを持たせる保育の工夫も求められる。

### Ⅵ. 保育者の専門性に関する研修と研究への意欲・態度 A

発達の遅れや支援を要する子どもへの対応に関心があり、今後はその分野の研修にも積極的に参加していこうとする姿勢がある。一方で、専門性向上のための学びや研修参加はまだ十分ではなく、今後の課題として捉えている。日頃は職員間で反省点を共有し、意見交換を行うなど、現場での学びを大切にしている。困りごとがあれば園長や主任に相談し、速やかに解決しようとする姿勢は保たれている。安全管理面では、子どもの多さから常時見守ることが難しい場面もあるが、遊具使用時のルールを子どもたちに伝え、安全に配慮

した保育を心がけている。保護者対応の場면을観察するなど、日常の中で学びを得ようとする意識は見られる。

#### VII. 保育の在り方、3歳未満児への対応 A

2歳児を対象とした無理のない行事参加や活動を通して、園児・保護者ともに楽しみながら日々を過ごせるよう工夫しており、今後も年齢に応じた保育を意識して取り組んでいこうとする姿勢がある。言葉で表現が難しい子どもの思いを動きや表情からくみ取り、保育に活かすことができている点は大きな強みである。一方で、保育に明確な「正解」がない中で、保育方針の違いに戸惑う場面もあり、経験を積みながら柔軟に対応できる力をつけていきたいという意欲が感じられる。今後も担任や周囲の保育者の考えを丁寧に聞き取り、自身の保育に取り入れながら、子どもに寄り添った対応を目指していくことが期待される。

#### VIII. 地域における子育て支援 A

園開放や未就園児教室、保護者向けのヨガ教室など、地域に根ざした子育て支援活動に積極的に取り組んでおり、今後さらに支援の回数や内容を充実させていこうとする意欲が見られる。一方で、園の子育て支援全体について十分に理解できていない面があり、今後は主任任せにせず、自園の取り組みを自ら説明できるよう備えていく姿勢が求められる。園開放の際には来園者への挨拶や安心感のある関わりを心がけており、地域の方々に対して丁寧な対応ができている点は評価できる。家庭との情報共有を通じて、個々の子どもに必要な支援について保育者間で共通理解を持ち、継続的に支援していくことが今後の課題となる。

#### IX. 年間目標 A

活動に積極的に取り組む姿勢が見られ、成長を感じる場面もあった。しかし、相手の思いを受け入れながら自分の思いを伝えることがまだ難しい部分もあり、今後の課題と感じている。現在の子どもの姿を踏まえた計画作成ができており、周りの先生との情報共有を通じて共に学ぶことができた。子どもに寄り添い、話に耳を傾けることで、今後も子どもと向き合いながら保育を進めていくことの重要性を学んでおり、これからさらに活かしていく姿勢が求められる。

#### [総合判断]

保育に対して積極的な姿勢が見られ、子どもの成長に寄り添った丁寧な対応が評価されます。計画作成や保育実践において柔軟で前向きな姿勢があり、保育の質向上に意欲的です。ただし、月案や行事計画の具体性に課題があり、同僚との情報共有や実践の見せ合いが不足しているため、今後は保育の一貫性を高めることが求められます。保護者との信頼関係構築は良好ですが、相談への対応や守秘義務の徹底には今後の改善が必要です。地域との関わりや自然との触れ合いも積極的に行っており、引き続き地域との連携強化が望まれます。総じて、専門性の向上に対する意欲が高く、今後は具体的な計画作成や情報共有、保護者対応の充実を図りながら、子ども一人ひとりに寄り添った保育を進めていくことが

期待されます。

【保護者の総合評価】

長野ひまわり幼稚園では、子どもたちが毎日楽しんで通園し、保護者からも高い評価を受けている。挨拶や礼儀を大切にした教育、音楽や体操、英語、食育など多彩な教育内容に加え、異年齢交流や参観日などを通じて子どもの興味を引き出し、成長を見守っている。先生方が子ども一人ひとりに寄り添い、温かい対応をしていることが保護者の安心感に繋がり、子どもたちも楽しそうに活動に参加している。保護者からは、教育内容や先生方の細やかな配慮、園庭や給食など、全体的な満足度が高いことがうかがわれる。